（６） にがうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	ＲＡＣコード	薬剤
1 べと病 *Pseudoperonospora cubensis*	1.発病苗は本圃に持ち込まない。 2.ポリマルチをする。 3.草勢の維持管理に努める。 4.日射、通風を良好にするため、適度の摘葉を行う。 5.多湿条件で発病しやすいので、湿度管理に注意する。	発病前から	11 11	アミスター２０フロアブル ストロビーフロアブル
2 うどんこ病 *Oidium* sp.	1.窒素過多は本病の発病を助長する。 2.昼夜の温度差が大きくなると、発病が多くなる。 3.肥切れを避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.サンヨールはアブラムシ類にも登録がある。	発病前から	－ M5 M10 U6･3 7・M5	サンヨール ダコニール１０００ モレスタン水和剤 (混)パンチョＴＦ顆粒水和剤 (混)ベジセイバー
3 炭疽病 *Colletotrichum orbiculare*	1.苗床の高温、多湿を避ける。 2.発病苗は本畑の伝染源となるので植えない。 3.ポリマルチや敷わらを行う。 4.窒素過多は発病を助長する。 5.不必要な側枝は早めに摘除し、通風、採光を図る。 6.連作を避ける。 7.被害茎葉や被害果は除去し、処分する。	発病前から	1 11 M5	トップジンＭ水和剤 アミスター２０フロアブル ダコニール１０００
4 つる枯病 *Didymella bryoniae*	1.発病苗は本畑の伝染源となるので植えない。 2.ポリマルチや敷わらを行う。 3.排水を良好にする。 4.窒素過多は発病を助長する。 5.不必要な側枝は早めに摘除し、通風、採光を図る。 6.連作を避ける。 7.被害茎葉は除去し、処分する。	発病前から	M5	ダコニール１０００
5 斑点病 *Cercospora citrullina*	1.排水を良好にする。 2.換気、通風を良好にする。 3.肥料切れをさせない。 4.摘除した病葉や収穫後の植物体残さは放置せず、早めに処分する。	発病前から	1 M5	トップジンＭ水和剤 ダコニール１０００
6 アブラムシ類	1.圃場とその周辺の除草に努める。 2.飛び込み軽減のため、育苗床は防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 3.周囲にシルバーテープをはる。 4.シルバーマルチをする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アディオン乳剤はフキノメイガ、カメムシ類にも登録がある。 2.トレボン乳剤はカメムシ類、ウリノメイガにも登録がある。	定植時	4A 4A	アドマイヤー１粒剤 ダントツ粒剤
		発生初期	1B 3A 3A 4A 4A 9B	マラソン乳剤 アディオン乳剤 トレボン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 コルト顆粒水和剤
7 ヨトウムシ類	1.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アディオン乳剤はフキノメイガ、カメムシ類にも登録がある。 2.トレボン乳剤はカメムシ類、ウリノメイガにも登録がある。 3.トアロー水和剤ＣＴ、バシレックス水和剤、エスマルクＤＦ、チューンアップ顆粒水和剤は、ヨトウムシに登録がある。 4.ゼンターリ顆粒水和剤、フローバックＤＦは、ヨトウムシ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウに登録がある。 5.サブリナフロアブルは、ヨトウムシ、ハスモンヨトウに登録がある。	若齢幼虫期	3A 3A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A	アディオン乳剤 トレボン乳剤 トアロー水和剤ＣＴ バシレックス水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤 エスマルクＤＦ フローバックＤＦ チューンアップ顆粒水和剤 サブリナフロアブル

にがうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
8 オオタバコガ	1.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	若齢幼虫期	6 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A	アファーム乳剤 トアローフロアブルCT ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF フローバックDF チューンアップ顆粒水和剤 サブリナフロアブル
9 コナジラミ類	1.苗による持ち込みに注意する。 2.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 3.被害植物や雑草は除去後、土中に埋るか、ビニール等で密封し半月程度放置する。	定植時	4A 4A	アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発生初期	3A 4A 4A 21A	トレボン乳剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 サンマイトフロアブル
10 ミナミキロアザミウマ	1.苗で本圃に持ちこまない。 2.シルバーマルチをする。 3.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆する。 4.侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 5.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明ファイルムにより全面被覆し（夏場の晴天時であれば1日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 6.周辺雑草及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7.被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アドマイヤー水和剤・顆粒水和剤は施設栽培での登録である。	発生初期	4A 4A 4A 13 15 21A	ダントツ水溶剤 アドマイヤー水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤 コテツフロアブル カスケード乳剤 ハチハチ乳剤
11 マメハモグリバエ	1.外部から苗を購入する際には虫の有無に注意する。	発生初期	15	カスケード乳剤
	2.飛び込み軽減のため、防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆する。 3.マルチ栽培は土中の蛹化防止に有効である。 4.被害植物や雑草は除去後土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 5.圃場内及び周辺の雑草処理を徹底する。 6.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊すことにより、密度を下げることができる。 7.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明ファイルムにより全面被覆し（夏場の晴天時であれば1日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。			
12 ハダニ類	1.圃場内や周辺の雑草防除を徹徹底する。 2.作物残さを放置すれば、ハダニの増殖源となるので、早めに処分する。	発生初期	10A 21A	ニッソラン水和剤 ダニトロンフロアブル
	3.収穫終了後、夏期ハウスを密封して、1～2週間太陽熱で残さを処理する。			
13 ネコブセンチュウ	1.水田に転換可能な畑では、2～3年に1回の割合で水田に戻す。 2.苗からの持ち込みを防止するため、センチュウ類や病害のおそれのない用土で育苗する。 3.施設では、夏期約1か月間の太陽熱利用による消毒を行う。	作付の10～15日前まで（土壌消毒）	8A	D－D
		播種前または定植前	1B	ネマトリンエース粒剤
	〈薬剤使用の特記事項〉 1.D－Dの土壌消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。			